

## CP100Aシステム 最上階のみにKSTを設置 排水性能実験

コア排水システムは各階に同じ継手を設置することで、その性能が保証されています。しかし改修現場などにおいては、納まり上の制約もあり、その原則が遵守できないケースもあります。上階からの排水が流下することのない最上階のみをコンパクト型:KSTにした場合の排水性能を検証し、安全性を確認する試験を行いましたのでその一部を報告します。

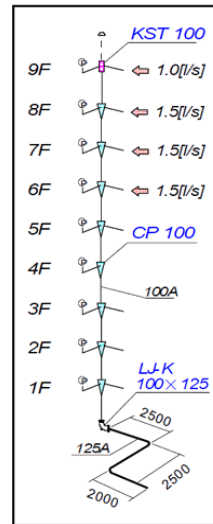
### ●実験配管

供試継手	CP60K 100×80 , KST-S 100×80
排水立て管径	100A
排水横主管径	125A
横主管形態	水平2曲がり2500×2500×2000
排水負荷	定流量 1～5.5[L/s]
こう配	1/100
試験方法	SHASE-S 218 「集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法」に準拠※

※対象物件が台所流し単独系統であるため、1フロア当たりの負荷流量を1.0[L/s]の場合と1.5[L/s]の場合について実験した。



9F 配管状況



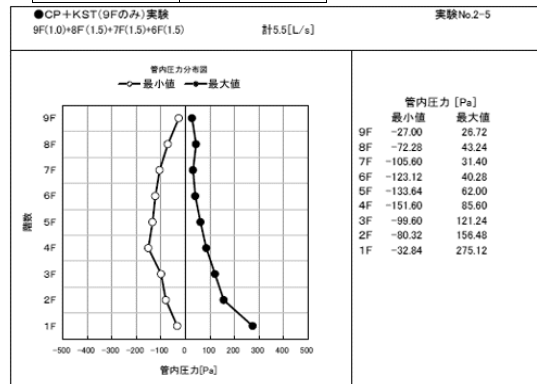
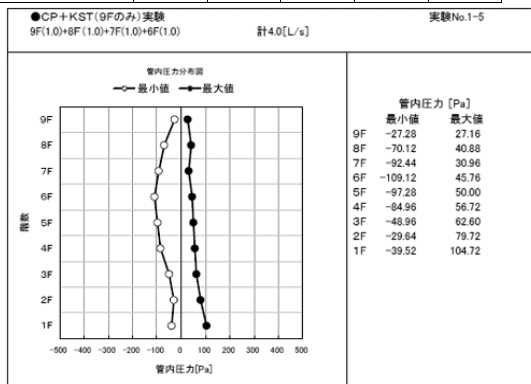
### ●実験結果(代表的な例を抜粋)

単位: [l / s]

実験NO.	9F	8F	7F	6F	合計
1-1		1.0			1.0
1-2		1.0	1.0		2.0
1-3		1.0	1.0	1.0	3.0
1-4	0.5	1.0	1.0	1.0	3.5
<b>1-5</b>	1.0	1.0	1.0	1.0	4.0
2-1		1.5			1.5
2-2		1.5	1.5		3.0
2-3		1.5	1.5	1.5	4.5
2-4	0.5	1.5	1.5	1.5	5.0
<b>2-5</b>	1.0	1.5	1.5	1.5	5.5

単位: [Pa]

P <sub>min</sub>	P <sub>max</sub>
-79.16	43.64
-92.32	78.12
-95.48	84.28
-99.52	98.00
-109.12	104.72
-103.72	62.08
-105.44	117.88
-145.64	169.00
-147.72	229.28
-151.60	275.12



### ●考察

定常流量法により算定した対象物件の負荷流量:2.7 [l / s]の約2倍の流量:5.5 [l / s]を負荷した場合でも、システム最小値が-151.60 [Pa]、システム最大値が+275.12 [Pa]であり、判定条件である±400 [Pa]以内に収まっており、安全性が確認できた。

### ●関連リンク

2000.02.29号  
 2000.03.15号

CP/KST/JIS排水能力の比較は、こちら  
 KST適応階数の目安/KST器具排水実験データは、こちら